

レポートを書く

レポートには、図書や論文の要約、実験の報告や、自分の意見を論じるものなどのタイプがあります。まず、そのレポートで何を求められているかを正しく理解することが必要です。ここでは、自分の意見を論じるタイプのレポートの書き方にまとめています。

1. テーマを絞り込む

与えられた課題は範囲が広い場合が多いので、実際に自分が書くテーマはできるだけ絞り込みましょう。

◎テーマを絞りこんでいる

資料の収集の範囲がある程度定まり、分析しやすい。論点がはっきりしていて、主張がよくわかるので、内容を読み取りやすいレポートになる。

⊗テーマが大きすぎる

いくつもの問題を含んでいるため、他人の意見の紹介や概論を並べるだけに終わり、結論がでない。言いたいことがわからず読みにくいレポートになる。

テーマの絞り込みには、

- ▶ 教科書・参考図書を読み返す
- ▶ その分野の雑誌の目次、特集号をみて、どんな論文が発表されているか調べる
- ▶ 社会問題の場合は、新聞で最近の話題をチェックする

などの方法が役に立ちます。

2. 本文を書く

レポートの本文は、序論・本論・結論で構成されています。

2-1. 序論を書く

序論(はじめに)にはレポートで取り上げる問題と自分の主張の要点を書きます。ここで結論まで書くことで、そのレポートで何を論じているかが明確になり、論点が決まればわかりやすいレポートになります。

課題の提起	このレポートでは・・・をとりあげる。
課題の意義	これを検討することで、・・・が明らかとなる。
レポートの構成	第1節では・・・を検討する。第2節では・・・。
要点(結論)	検討した結果、・・・である。

2-2. 本論を書く

本論では、主張の根拠を書きます。いくつかの根拠を各節(または段落)で述べていきます。そこでも最初の文章で要点を述べて後にその要点に関する説明を書くと、レポート全体の構成同様にその節の論点が変わりやすくなります。

先行研究の分析や事実(データや具体例)	すでに・・・の研究があり、それについて・・・。
導かれた意見	以上のことから、・・・ということがいえる。

2-3. 結論を書く

結論(おわりに)で、もう一度主張を確認します。また、本論で書き足りなかった意見について簡単に述べることもあります。



レポートの結論部分と、序論に書かれた結論が違うものとなっていないかどうか、レポートを最後まで書き上げてから、もう一度序論に戻って調整しましょう。

3. 引用と引用文献

本文中で資料の引用をして、主張の根拠を示します。また、引用した資料を、レポートの最後に一定の形式でリストにしてつけます。表示の形式は、専門分野によって異なります。指示がない場合は本学の紀要などを参照しましょう。

▶ 引用の一例

世界の子ども部屋の調査を行った北浦(2006, p.23)は、現在の日本の子供部屋における問題の一つとして「親子関係の希薄化は、子ども部屋の問題ではないのに、あたかも子ども部屋の責任であるかのように語られていること」をあげている。

▶ 引用文献リストの表記例

北浦かほる「世界の子ども部屋 子ども自立と空間の役割」『生活科学研究誌』 vol.5, p.15-24, 2006

(著者・タイトル・論文を掲載している雑誌名・巻号・ページ・発行年の順に記載)



資料を参考にしたり引用したりしたときに、資料名を明記することは、「資料に書かれていた事柄や他人の意見と、自分の意見とを区別する」「基本的な文献を読んで理解したうえで論じていることを示す」などのために必要です。引用せずに他人の意見をそのまま書き写す(表現を若干変えて写すことも同様)ことは著作権法で禁じられた行為です。
また、他の論文に引用されている論文は、原典にあたってみると自分と解釈が違っていたり、掲載ページが間違っていたりということもあります。読まずに引用文献リストに載せたりせず、もとの文献にあたきましょう。

4. 参考になる図書

本学で所蔵しているレポート・論文の書き方に関する資料は、次の方法で調べることができます。

▶ OPACで、キーワード「レポート 書き方」「論文作法」などで検索する

▶ 分類記号 816.5 の書架(3F 開架新体系)をみる

▶ ライブラリーサービス HP - 2F 図書展示企画「大学の学び方、レポートの書き方」の資料リストをみる

図書の例

書誌事項(著者、書名、出版社、出版年)	配置場所	請求記号
菊田千春, 北林利治 『大学生のための論理的に書き、プレゼンする技術』 東洋経済新報社, 2006	3F 開架新体系	816.5//KI29//3653
酒井聡樹 『これから論文を書く若者のために』大改訂増補版, 共立出版, 2006	3F 開架新体系	816.5//SA29//9470
戸田山和久 『論文の教室 : レポートから卒論まで』日本放送出版協会, 2002	3F 開架新体系	816.5//TO17//8031
木下是雄 『レポートの組み立て方』 筑摩書房, 1994	4F 文庫版	816.5//KI46//8037